

好フィーリングも暑さに苦戦 7位得点で終盤戦に繋げる

D'station Racing
PORSCHE
911 GT3 R

AUTOBACS SUPER GT SERIES Round.5 Fuji

August 4 - 5 2018

今季ここまで、第3戦をのぞきポイントを獲得しつづけている D'station Racing。迎える第5戦は、例年同様夏の富士スピードウェイでのレースだが、2018年から500マイル(約804km)の長距離レースとなった。SUPER GTでは700km以上のレース距離の場合、ボーナスポイントが加算することができる。シリーズを考えた場合、上位入賞が重要となった。

タイから戻った D'station Porsche は急入りに準備され、8月4日(土)の公式予選日を迎えた。汗ばむ陽気のなか、午前8時40分からスタートした公式練習では、途中大きなクラッシュで中断したものの、藤井誠暢が20周、スヴェン・ミュラーが18周をこなし、藤井選手が1分38秒565というタイムをマーク。7番手と好位置につけた。

ウエイトハンデもあり苦しい戦いが予想された D'station Porsche は、第4戦から第5戦に向けて、ライバルに対してのスピードを改善するべく改善を進めてきたが、その甲斐あって公式練習ではフィーリングも良好。午後の予選では、ミュラーをQ1に据え、予選上位を目指すべく藤井をQ2に据えることになった。

そして期待に応えたミュラーは1分38秒460というタイムをマークし、12番手とQ1突破ラインギリギリの順位ながら、見事ミッション

を果たし Q2 の藤井に繋げる。すると藤井も1分38秒405というタイムを記録し、富士での予選最上位となる8番手につけた。

フィーリングも良く、ポルシェ 911 GT3 R は決勝でのロングに強みがある。加えて8番手からのスタートということもあり、上位入賞の機会もありそうだ。D'station Racing は期待とともに、8月5日(日)の決勝日を迎えることになった。

午後1時30分からの決勝は、4回のピットストップが義務づけられている。合計5ステントが必要になるが、実際にはGT3カーの場合、3回のピットストップでも500マイルは走りきれる。ではこの1回分のストップをどう活かすか……?

チームは長年の経験から、1回目のストップを早めに行いコース上の混雑を避け、ロスタイムを減らし、レース後半でセーフティカーが出た場合等で負うリスクを減らす作戦を立てた。

スタートドライバーを務めたミュラーは、すぐに6番手に浮上することになるが、この作戦に従い5周を終えピットイン。早々に藤井に交代し、ピットイン義務をこなす。藤井はコース上の空いたスペースで高いペースを保とうとするが、折からの酷暑で路面温度が高く、タイヤが悲鳴を上げ始めた。ピットに状況を報せた藤井は、36周を終えピットインしミュラーに交代。症状は改善されたが、厳しさを感じたままミュラーは76

周まで走行し、ふたたび藤井に交代した。

この頃になるとやや気温も下がり、徐々に D'station Porsche のタイヤの路面がマッチし始める。均等にピット頻度を設定したライバルたちとは、時に順位が重なりながらも“見えない敵”との戦いとなっていたが、少しずつポジションも上がる。藤井は自身の第2ステントでロングドライブを敢行すると、124周まで引っぱり、ふたたびミュラーに交代した。

終盤、8番手までポジションを上げたミュラーに #10 GT-R が少しずつ近づくが、ミュラーはしっかりとペースをコントロール。逆に前に走っていた #21 アウディがタイヤを傷めピットインしたため、7番手まで浮上すると、長い500マイルをきっちり走りきり、D'station Porsche は7位5ポイントを獲得した。ふたたびポイントを重ねた藤井とミュラーは、ランキング8位。まだタイトル争いには残れる位置だ。

今回のレースは暑さや展開が味方せず、トップ争いに絡むことはできなかったが、ドライバーふたりも与えられた状況の中でベストを尽くし、チームもノーミスで戦いを終えた。昨年までとは大幅にキャラクターが変わったポルシェ 911 GT3 R なら、終盤3戦は勝負できる可能性が高い。今回つかんだ5ポイントは、きっと終盤戦で生きてくるはずだ。

PARTNERS

YOKOHAMA

Mobil 1

ENKEI

PUMA

GoPro

POWER PRODUCTION

DIETRICH

KTEL

KENWOOD

EBBRÖ

P.G.O.

KRS

MAKE WINNER

LG

DAYZ

SPY+

SP

UNI WORLD

ヤマトグループ

株式会社 平川合利(一)レース

三洋紙業

Goko

RAFFINÉ INTERNATIONAL

air-J

NEXUS GROUP

NEXUS

D'sTATION

SPORESH

HOTEL NEXUS DOOR TOKYO

OZIMA

Aip

湯楽部

D'sTATION



Satoshi Hoshino Team Principal

長距離だったので表彰台も期待しているレースだっただけに、その点では残念でした。今回はライバルメーカーのタイヤが非常に強く、その差という面で難しいレースでした。ただ7位フィニッシュということで、最低限のポイントを獲得することができたので、次に繋がるとは思っています。まだまだあきらめずに次の挑戦をしていきたいですね。併催のポルシェ カレラカップ ジャパンでは、若者と戦えることも分かりました。今度は最終戦の鈴鹿ですが、レースで勝てるようにがんばりたいです。皆さん応援本当にありがとうございました。



Kazuhiro Sasaki General Manager

長丁場のレースということで、レース前にはもう少し上位でフィニッシュしてくれることを期待していましたが、もう少しでした。見せ場がなかったですね(苦笑)。今回のレースを活かし、またいろいろな対策を立ててチャレンジしてくれると思っています。きっちりポイントを獲得してくれたことは良かったのですが、当然この順位で満足しているチームではないですし、もっと上で走ることができる力を持っていると確信しています。次のレースはまた頑張っていきたいですね。



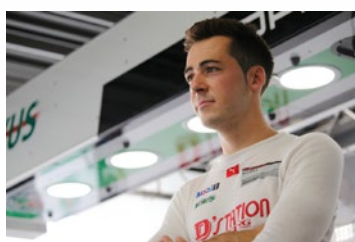
Toshiaki Takeda Team Director

最終的にレース終盤は気温、路温が昨日より下がり、タイヤには合いましたが、そこではいいペースで走ることができました。ドライバーふたりも頑張ってくれて、ミスもなく7位という結果を残すことができました。ただ前戦もこのくらいの位置でしたし、とにかくもう少し上位に行きたい。あとアベレージでコンマ3秒上げたいのですが、タイヤサイズもありこの時期は特に厳しくなります。なんとかランキング上位に食らいついている状況なので、終盤3戦で大量得点をしたいところですね。



Tomonobu Fujii Driver

結果としては予選8番手、決勝7位となりました。ストラテジーは悪くなかったと思いますが、路面温度が高いときのスティントでは、少し苦しい戦いになりました。後半スティントで履いたタイヤのパフォーマンスは素晴らしく、ペースを盛り返すことができました。ただ、表彰台を狙うためにはもっと改善しなければいけません。残り3戦の課題が見つかったと思いますが、タイトル争いを考えても残りのレースでいいレースをしなければいけないと思っています。そして今月開催される鈴鹿10時間もいい戦いをして、終盤戦に繋げていきたいですね。



Sven Müller Driver

全体的にはいい週末だったと思う。チームは全力を尽くしてくれたし、いい仕事をしてくれた。マシンもプラクティスから予選、決勝を通じてすごくドライブしやすかったし、今年初めて僕のドライブでQ2に進出できたのは良かったよ。スタートはバトルを楽しんで、ふたつ順位を上げることができたんだけど、気温が高すぎて僕たちには不利だったね。終盤は気温も下がって、いいペースで走ることができたと思う。最終的には7位になったけど、今回の条件を考えたら結果には満足しているよ。

Official Website : <http://dstation-racing.jp>

Facebook : <http://fb.me/DstationRacing>

PARTNERS



NEXUS GROUP

